

リアルタイム浸水ハザードマッピングのための現地情報同化技術

ライセンス契約を受けていただき 本発明の実用化を目指していただける企業様を求めます。

多数の氾濫シミュレーション結果と現場からの浸水関連情報を統合し、リアルタイム浸水ハザードマッピングを実現します。

◆背景

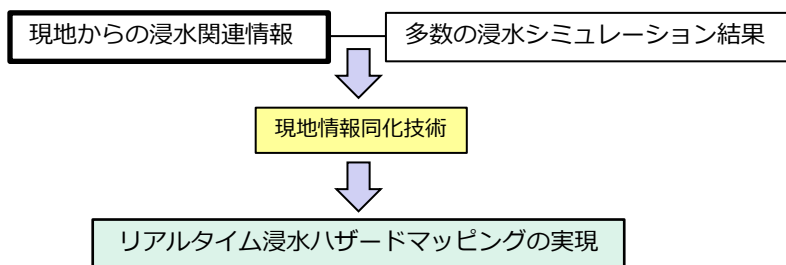
豪雨による浸水の状況を自治体が迅速に把握することは重要であるが、災害時は現場からの通報情報を処理できず、浸水状況を俯瞰的に把握できていない。

既存の洪水ハザードマップは想定したシナリオ計算によるものであり、実際に起きている浸水の状況を表示するマップではない。「いま・どこで・どの程度の浸水が発生しているか？」を示すリアルタイム浸水ハザードマップが求められている。

◆発明概要と利点

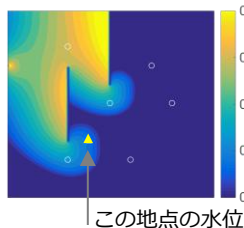
発明者は氾濫シミュレーション結果と浸水現場からの情報を統合する現地情報同化技術を発明しました。

本技術により、現地からの情報を反映したリアルタイム浸水ハザードマッピングを実現することが可能になります。

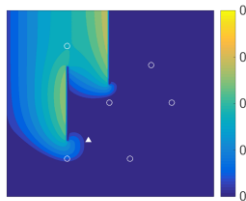


A. 仮想氾濫ケース

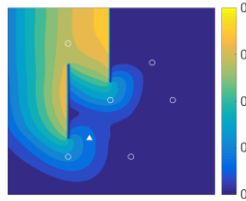
①真値（白丸は観測点）



②既存シミュレーション

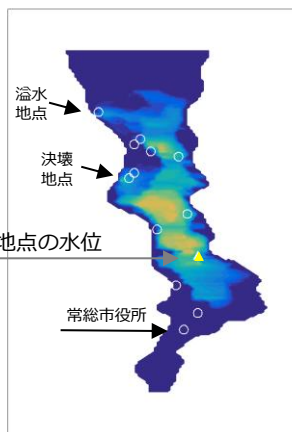


③本件浸水マップ

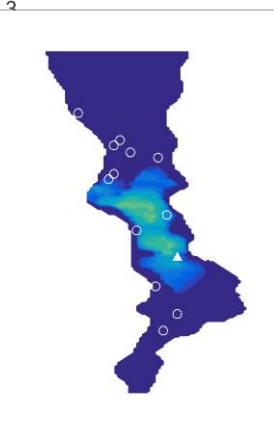


B. 2015年9月鬼怒川洪水

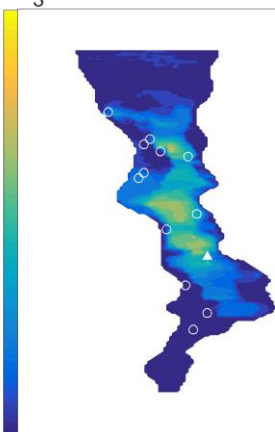
①真値（白丸は観測点）



②既存シミュレーション



③本件浸水マップ



「②既存シミュレーション」と比較し、「③本件浸水マップ」が「①真値」に近づいていることが確認される。

◆開発段階

- ・実際のケース（鬼怒川）を用いたシミュレーションは完成済。

◆適応分野

- ・河川氾濫
- ・浸水被害

◆特許情報

出願人：京都大学
出願番号：特願2018-557724
※本発明は特許出願済です。

◆希望の連携形態

- ・実施許諾（非独占）
- ・オプション（非独占）

◆お問い合わせ先

京都大学産学連携担当
株式会社 TLO 京都
ライセンシング・アソシエイト
担当：藤田 直子

〒606-8501 京都市左京区吉田本町
京都大学 産官学連携本部内
(075)753-9150
fujita@kansai-tlo.co.jp

IAC Institutional Advancement and Communications

